

# 挑戦 2008

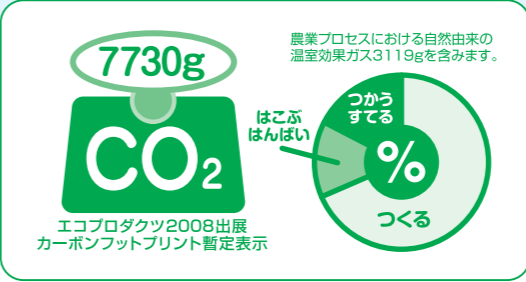
## 商品のCO<sub>2</sub>排出量の「見える化」= 取り組み

CO<sub>2</sub>総排出量  
7,730g



商品のCO<sub>2</sub>排出量を把握して、みんなでCO<sub>2</sub>をできるだけ出さない行動につなげることをめざしています。

イオンでは、カーボンフットプリント(炭素の足跡)の取り組みを始めました。商品の一生(商品のライフサイクル)の中で、排出されるCO<sub>2</sub>の量を商品パッケージに表示するものです。商品がいつ、どれだけのCO<sub>2</sub>を出しているのかを「つくる」「はこぶ・はんばいする」「つかう・すてる」に分けて「見える化」します。商品のCO<sub>2</sub>排出量をみんなが把握し、生産者、運送業者、イオン、そしてお客さまがそれぞれCO<sub>2</sub>をできるだけ出さない行動を取ることで、低炭素社会の実現をめざしています。



一例として「トップバリュ グリーンアイ 特別栽培米あきたこまち5kg」の場合  
2009年1月、全国10店舗で「トップバリュ」7品目9種類において「カーボンフットプリント」を表示した商品を試験販売しました。

CO<sub>2</sub>排出量  
5,296g



### つくる

【CO<sub>2</sub>を測定している範囲】  
商品やパッケージの原材料の採掘・運搬・加工など

**CO<sub>2</sub>削減の工夫**

**効率化とコストダウンにつながるカーボンフットプリントに期待。**

農業・化学肥料の使用をおさえた栽培に切り替えると、CO<sub>2</sub>を削減することが可能です。カーボンフットプリントに取り組むことにより、生産の効率化やコストダウンにもつながるので、積極的に取り組んでいきたいですね。



トップバリュ グリーンアイ「特別栽培米あきたこまち」生産者  
農事組合法人「たねっこ」 工藤 修 代表理事

CO<sub>2</sub>排出量  
1,091g



### はこぶはんばいする

【CO<sub>2</sub>を測定している範囲】  
商品の輸送、店頭での販売(冷ケース・照明)など

**CO<sub>2</sub>削減の工夫**

**輸送の際のイオンのグループ全体で推進。**

CO<sub>2</sub>削減の主な取り組みとして、トラックから貨物へ切り換える「モーダルシフト」や、店からの帰りの空車を利用することによる「車輦台数削減」などを行っています。また、一度に大量に運ぶ「車輦大型化」、そしてハイブリッド車などの「環境車輦導入」などを実施。さらに運ぶ工夫だけでなく、物流センターのエコ化も進めています。



イオングローバルSCM(株) 小南 梓

CO<sub>2</sub>排出量  
1,343g



### つかうすてる

【CO<sub>2</sub>を測定している範囲】  
家庭での使用・調理・廃棄など

**CO<sub>2</sub>削減の工夫**

**調理方法を工夫することでCO<sub>2</sub>を減らすことができます。**

商品に使うときのCO<sub>2</sub>の量が表示されると、私たち消費者も減らすことをより意識するようになりますね。無駄を減らせばCO<sub>2</sub>は減ります。蒸らす時は炊飯器の電源を切る。電気代が節約でき、CO<sub>2</sub>も減らせます。お米は炊いたら食べきる。余ったら小分けして冷凍にする。余らせて捨てるのが一番駄目。イオンはいつも、みんなで取り組む問題にいち早く取り組んでくれるので、注目しています。

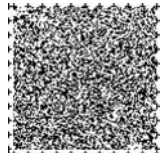


節約アドバイザー 矢野きくの 様

つくる **68.5%**

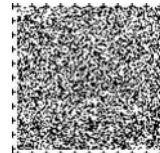
はこぶはんばいする **14.1%**

つかうすてる **17.4%**



HP カーボンオフセット

<http://www.aeon.info/> → 環境・社会貢献活動 → イオン 環境・社会報告書 → カーボンオフセット



# 挑戦 2008

# レジ袋無料配布中止店舗の拡大

全国で市民団体や地方自治体との連携・協働を進め、実施店舗が一気に拡大しました。

2007年1月全国チェーンとして初めて、イオンはジャスコ東山二条店で「レジ袋無料配布中止」を開始しました。「レジ袋無料配布中止」実施店舗数は、22店舗(2008年2月度終了時点 連結対象企業の中の5社計)から447店舗(2009年2月28日現在 連結対象企業の中の14社計)に一気に拡大しています。

イオンでは、有料レジ袋の収益金の50%を店舗が所在する地域の自治体などを通じて、環境保全活動などへ寄付、残りの50%をイオンがCO<sub>2</sub>排出権を購入して、政府へ寄付しています。京都議定書に基づく日本のCO<sub>2</sub>排出量削減に貢献しています。

2008年9月1日「姫路市におけるレジ袋削減に向けた取り組みに関する協定」を姫路市、姫路市消費者協会、姫路市内12事業者の三者間で締結。同年11月1日姫路市内のマックスバリュ西日本(株)22店舗、(株)マイカル1店舗、イオンリテール(株)2店舗をはじめ62店舗において、レジ袋の無料配布中止をスタートしました。

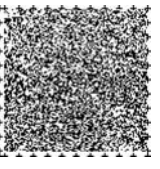
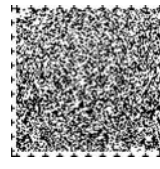
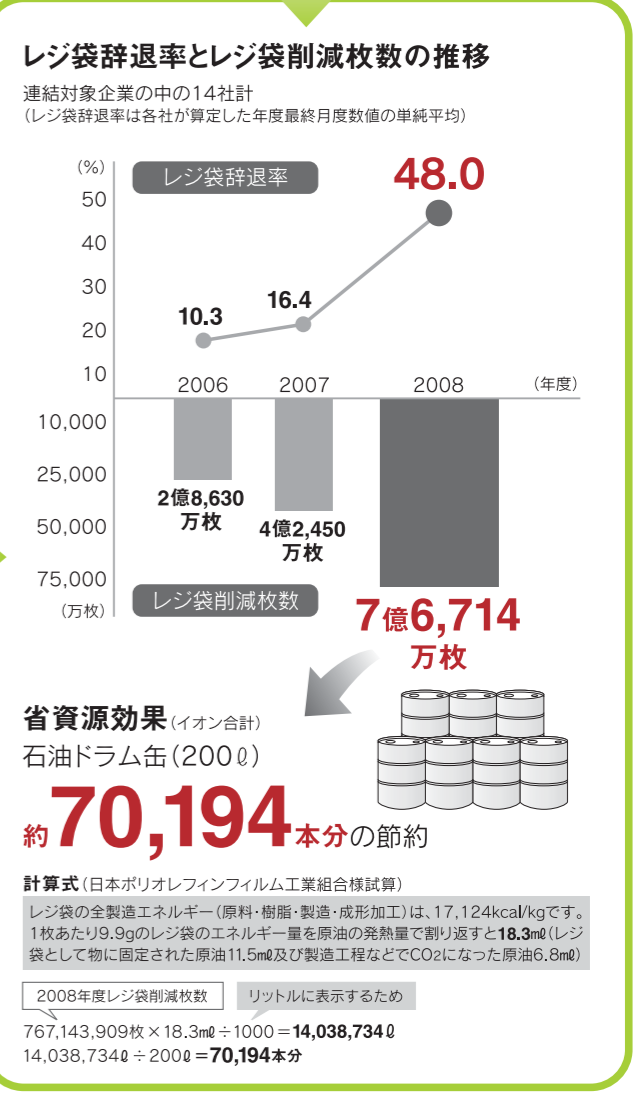


2009年2月28日現在  
**163** 都市 **447** 店舗で実施しています

## 買物袋持参運動(マイバスケット&マイバッグ)を推進しています。

イオンでは「レジ袋無料配布中止」に先駆けて、1991年から18年間、お客さまとともに、積極的に「買物袋持参運動」を展開してきました。この取り組みは、お客さまにマイバスケットやマイバッグを持参いただき、レジ袋の使用量を削減することで、地球温暖化の原因となるCO<sub>2</sub>排出を抑えるとともに、ゴミの削減や原料の石油の節約をめざすものです。

2008年度は約7億7千万枚(連結対象企業の中の14社計)のレジ袋を削減しました。「レジ袋無料配布中止」店舗の拡大と「買物袋持参運動」の強化により、2010年度までに全店における買物袋持参率50%以上の目標達成をめざし、さらにレジ袋の大幅削減へ向けて取り組みを積極的に推進します。



# イオンの植樹活動

## 1991年～ イオン ふるさとの森づくり

お客さまとともに続けている植樹活動。

イオンでは、新たな店舗や物流センターがオープンする際に、お客さまとともに店舗の敷地内に植樹を行っています。この「イオン ふるさとの森づくり」は、新しくできる店舗が地域に根ざし、地域のコミュニティに成長すること、そして緑を育む心が世界に広がることを願い、1991年より続けています。横浜国立大学・宮脇昭名誉教授のご指導のもと、地域に自生する樹木の苗木を植えています。2008年度はアジアを含めた64カ所で、合計617,087本の苗木を植えることができました。これまでの累計植樹本数は2009年2月28日現在、7,447,122本(財団法人「イオン環境財団」を除く)になっています。

イオンレイクタウン  
9月7日 85,552本の苗木を植樹。



イオンかほくSC  
10月5日 29,391本の苗木を植樹。



イオンモール草津  
10月12日 68,566本の苗木を植樹。



イオンモール筑紫野  
11月9日 42,526本の苗木を植樹。

## 1991年～ 財団法人「イオン環境財団」

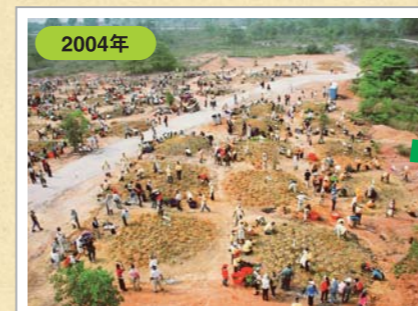
グローバルな視点で環境保全活動を実践。

財団法人「イオン環境財団」は地球市民として、グローバル視点で市民の皆さまと協力し、さまざまな国と地域で地球環境保全活動と、環境NGOなどへの支援活動を行っています。

2008年度は、国内では「三重県宮川村」「北海道支笏湖」などで植樹活動を実施。海外では「中国青島植樹」「ケニア植樹」などグローバルに環境保全活動に取り組んでいます。「中国万里の長城」での植樹活動は1998年に開始。中国建国60周年の年である2009年には、累計植樹本数が100万本に達する予定です。

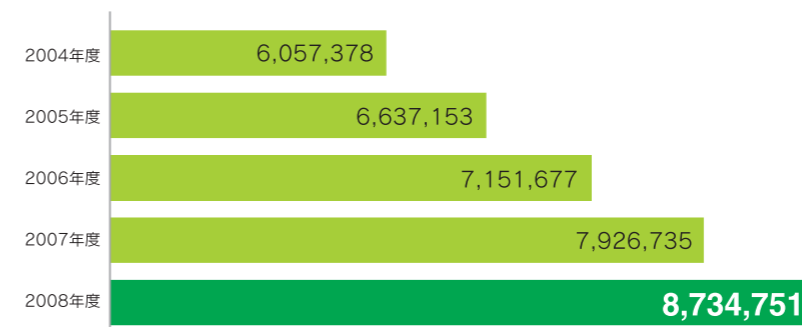
### マレーシアでの植樹活動

2004年、現在のイオンマレーシア(株)(旧社名:ジャヤジャスコ(株))の設立20周年を記念して、植樹活動を行いました。いまでは写真の通り緑豊かな森になっています。

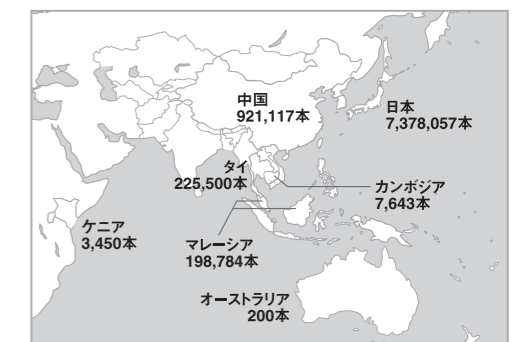


### 累計植樹本数(単位:本)

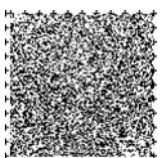
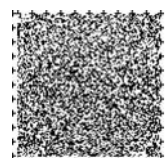
「イオン ふるさとの森づくり」と財団法人「イオン環境財団」の植樹数の合算(2009年2月28日現在)



### エリア別植樹本数



お客さまとともに **8,734,751**本植樹



# イオン・デー

イオンでは、毎月11日を「イオン・デー」として、エコロジー（環境）とローカル（地域還元）をテーマに、地域社会の一員として環境保全・社会貢献活動を行っています。2001年8月に始まり、今年で8年目を迎えました。

## 1991年～ クリーン&グリーン活動

清掃ボランティアで地域に貢献。

イオンの従業員が、ボランティアでお店の周りや近くの公園、河川敷、公共施設周辺の清掃を行う「クリーン&グリーン活動」は、1991年4月に始まりました。2001年からは毎月11日の「イオン・デー」に活動を実施しています。

創業250周年に「日本縦断 イオン・クリーンキャンペーン」を実施。

2008年はイオン創業250年という節目の年を迎え「日本縦断イオン・クリーンキャンペーン」を実施。北海道札幌市、沖縄県那覇市を出発点に、2つのルートから京都議定書発祥の地である京都をめざし、日本列島をリレー方式で清掃しました。

4月5日にスタートし、47都道府県全ての地域のお客さまや行政、お取引先様のご協力のもと、10月11日に京都府役所周辺の清掃活動で終了しました。593,601人にご参加いただき、2,765,739リットルのゴミを回収することができました。



◎2,765,739リットルのゴミを回収。  
◎参加者は593,601人。

# 毎月 11 イオン・デー

## 2001年～ イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン

お客さまとともに地域のボランティア活動を支援。

2001年より実施している「イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン」は、地域で活躍するボランティア団体をお客さまとともに応援する活動です。毎月11日の「イオン・デー」に、お客さまにお渡しする黄色いレシートを店内の専用BOXに投函していただき、そのレシート合計金額の1%分を各ボランティア団体の希望する品物で寄贈します。

2008年度の実施店舗は、グループの15社1,355店舗に拡大。26,509団体に総額2億7,216万円相当の品物をお渡ししました。2009年2月までの累計では95,790団体へ総額8億1,869万円相当の品物を寄贈しています。

贈呈実績累計

年	登録団体数	投函レシート金額 (円)	贈呈相当額 (円)
2001年	2,697	約18億6,615万円 (1,866万円)	
2002年	8,882	約58億2,165万円 (5,821万円)	
2007年	69,281	約542億9,012万円 (5億4,652万円)	
2008年	95,790	約813億9,813万円 (8億1,869万円)	



◎2008年度は、グループ**1,355**店舗で実施。**26,509**団体に総額**2億7,216**万円相当の品物を贈呈。  
◎2009年2月まで累計で**95,790**団体へ総額**8億1,869**万円相当の品物を贈呈。

## 1977年～ イオン社会福祉基金

労使双方で障がい者の方を支援。

イオン社会福祉基金は、1977年に、全国の障がい者の方の自立と社会活動への参加促進、障がい者福祉の向上を図ることを目的に設立されました。イオンの労使による毎月50円(労使双方で100円)の積立金で運営されています。現在、グループの59社が参加し、「ボランティア活動」「福祉車輛の贈呈」を柱に活動しています。2008年度は、「ボランティア活動」として650の施設を訪問、全国で5台の福祉車輛を贈呈しました。これまで「ボランティア活動」を行った施設数は5,500施設、「福祉車輛の贈呈」は17台になります。



◎ボランティア活動を行った施設数は**650**施設。 ◎2008年度は福祉車輛を**5**台贈呈。

HP イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン <http://www.aeon.info/> → 環境・社会貢献活動 → イオン 環境・社会報告書 → イオン 幸せの黄色いレシートキャンペーン

HP 募金活動 <http://www.aeon.info/> → 環境・社会貢献活動 → イオン 環境・社会報告書 → 募金活動

# リサイクル

限りある資源を捨てずに、再利用するための取り組みです。お客さまとともに行うリサイクル活動を始め、イオンの店舗から出る食品残さなども大切な資源としてリサイクルするなど、さまざまな取り組みを行っています。

## 1991年～ 店頭リサイクル回収

お客さまとともに取り組むリサイクル。

貴重な資源を捨てずに再資源化するために、イオンの店頭では紙パック、食品トレイ、アルミ缶、ペットボトルの回収BOXを設置しています。

回収したアルミ缶や紙パックは「トップバリュ 共環宣言」の原料の一部に使用して再商品化するなど、循環型社会の構築に向けた取り組みを積極的に続けています。

### 容器別リサイクル回収量

連結対象企業中の15社計

年度	紙パック 約1億2,891万本	食品トレイ 約2億4,322万枚	アルミ缶 約1億6,899万本	ペットボトル 約8,204万本
2006	3,175	1,378	2,454	3,870
2007	3,374	1,391	2,439	4,500
2008	3,867	1,703	2,704	5,169

紙パック(1,000ml)1本=30g 食品トレイ1枚=7g アルミ缶(350ml)1本=16g ペットボトル1本=63gとして換算しました。



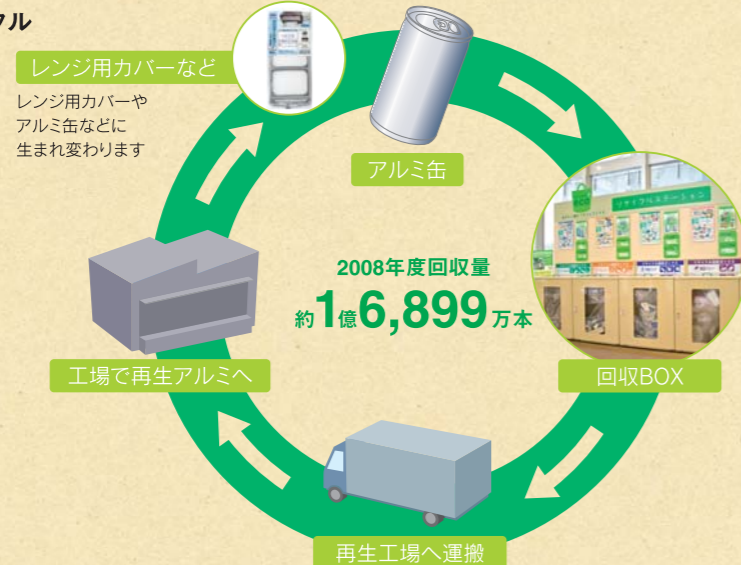
## 1998年～ 食品リサイクル

食品のリサイクルループが完成。

ミニストップ(株)では、販売期限切れのお弁当などの食品残さを資源活用するため、1998年から堆肥や飼料へリサイクルする活動に取り組んでいます。

2004年より食品残さの「養豚の飼料化」が本格的にスタート。2008年4月にエコフィード(食品残さからつくる栄養バランスのとれた安全な配合飼料)で肥育された豚肉を使った「プチメンチカツのり弁当」を発売し、「食品のリサイクルループ(循環の輪)」が完成しました。2008年度より、イオンリテール(株)関東地区の一部店舗でも同様の取り組みを始めています。

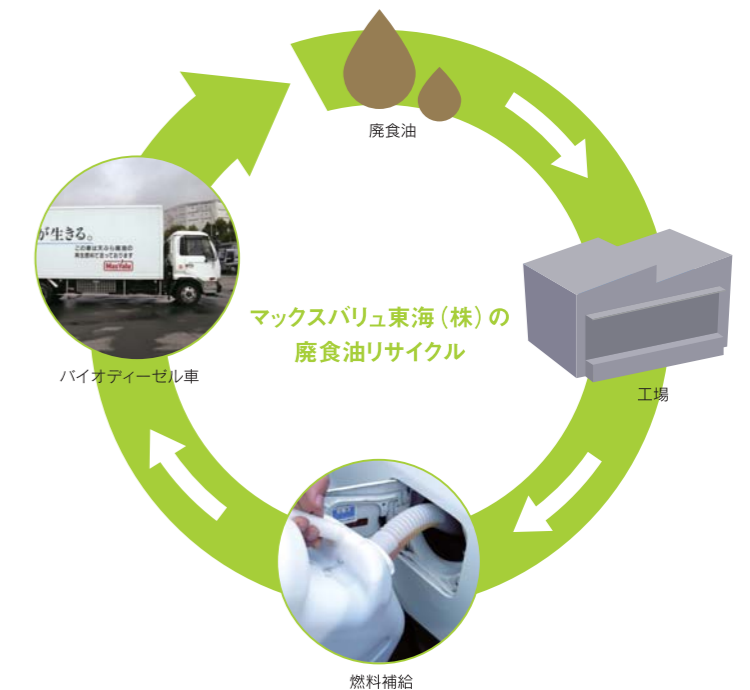
### アルミ缶のリサイクル



## 2003年～ 廃食油の燃料化

バイオディーゼル燃料にリサイクル。

マックスバリュ中部(株)、マックスバリュ東海(株)では、店舗の惣菜部門で揚げ物用に使用した廃食油をバイオディーゼル燃料(BDF)にリサイクルして、社有車の燃料にする取り組みを実施しています。3Rの推進と廃棄物の削減を進める中、自社で排出し再資源化された燃料を使用しています。2003年から取り組んでいるマックスバリュ中部(株)では商用バン3台、2006年から取り組みを始めたマックスバリュ東海(株)では、物流トラック1台と商用バン3台のBDF対応車両を活用しています。



## 1995年～ リターナブルコンテナ/リユースハンガー

イオンは、リターナブルコンテナやリユースハンガーの利用を増やし、廃棄するダンボールの大幅な削減を実現しています。

◎2008年度はリターナブルコンテナ3,276万ケース、農産コンテナ1,693万ケース、リユースハンガー1,632万着分利用。

## 2000年～ SELF+SERVICE(セルフサービス)

「SELF+SERVICE」は、エコロジー・リサイクルをテーマに、おしゃれを楽しみながら環境に配慮できるライフスタイルを提案しています。2002年、繊維のリサイクルに配慮した「エコメイトマーク」商品の販売を開始し、2003年からは自主回収をスタートしました。2007年からは販売した衣料品の全品回収(靴、帽子など繊維製品を含む)を開始。ファイバーリサイクルに積極的に取り組んでいます。



リサイクルに配慮した「エコメイトマーク」



衣料品の回収BOX

## 2008年～ ペットボトルキャップ回収キャンペーン

リサイクルを通じた社会貢献活動。

イオンは2008年6月より「ペットボトルキャップで世界の子どもたちに笑顔を!!」キャンペーンを開始。全国585店舗の店頭でペットボトルキャップを回収し、リサイクル業者に買い取っていただいた対価を寄付金として、貧困に苦しむ世界の子どもたちを支援する団体に贈呈しました。合計約1億4,500万個のキャップが集まり、75,563名分のポリオワクチンや栄養給食、文房具が世界の子どもたちに届けられました。支援団体は認定NPO法人「世界の子どもにワクチンを日本委員会(JCV)」、社団法人「セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン」、財団法人「日本フォスター・プラン協会(プラン・ジャパン)」の3団体です。

※イオン九州(株)の支援団体は認定NPO法人「世界の子どもにワクチンを日本委員会(JCV)」の1団体です。

◎全国585店舗で約1億4,500万個のキャップを回収。

◎75,563名分のポリオワクチンや栄養給食、文房具に。



贈呈式 回収BOX